

第97回 横浜市公立大学法人評価委員会 会議要録	
日 時	令和5年8月18日(金)14時00分～16時00分
開催場所	横浜市役所会議室(みなと1・2・3)
出席委員	板東委員長、今市委員、大久保委員、大塚委員、山本委員
欠席委員	なし
法 人	小山内理事長、相原学長、後藤附属病院長、榊原センター病院長、中條副学長、遠藤副学長 ほか
市・事務局	鈴木政策局長、高倉大学担当理事、澤田大学調整課長、中村大学調整課担当係長 ほか
開催形態	公開(傍聴者なし)
議 題	1 第96回横浜市公立大学法人評価委員会会議要録(案)について 2 令和4年度及び第3期中期目標期間 公立大学法人横浜市立大学の業務の実績に関する 評価結果について

議 事	<p>主要な発言は、以下のとおり(○:委員発言、△:法人・事務局発言)。</p> <p>※議題1について<資料1> 資料1の内容で公表することについて、異議なし。</p> <p>※議題2について<資料2～4></p> <p>○ 本日は、「令和4年度」と「第3期中期計画期間」の業務実績の評価について、原案をもとに本評価委員会としての評価を確定していく。評価結果は、地方独立行政法人法(第78条の2)の規定により、法人に通知するとともに、設立団体の長である市長に報告することとなっており、報告を受けた市長はこれを議会に報告する必要があるとされている。 資料2の評価書案は、各委員からの意見をもとに事務局で取りまとめたものとなっているので、説明をお願いしたい。</p> <p>(事務局から、資料2及び3について説明)</p> <p>○ 各委員の評価が揃っていない部分や、法人の自己評価と異なる部分を中心に審議し、本委員会としての評価を確定していきたい。 まず令和4年度分について。「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための取組」は、全体評価は全員がAであるので異論はないかと思う。 小項目の「1教育に関する取組」、「2研究の推進に関する取組」はそれぞれ1名がSで、4名がAであるので、案はAとしている。案のとおり、ⅠはAと確定してよろしいか。 (異議なし) 「Ⅱ地域貢献に関する取組」は、1名がS、4名がAで、案はAとしている。「Ⅲ国際化に関する取組」は1名がB、4名がAで、案はAとしている。このⅡとⅢは、それぞれAとすることでいかがか。 (異議なし) 「Ⅳ附属2病院に関する目標を達成するための取組」は、全体評価は全員Aであるので、案もAとしている。 小項目の「1医療分野・医療提供等に関する取組」は1名がA、4名がS。法人の自己評価はA、案はSであるが、この点はいかがか。</p> <p>○ 私はAとした。自己評価ではAの方が多かったことと、私は医療分野には不案内なこともあり、ずいぶん悩んでAとしたが、Sでも異存はない。</p> <p>○ 今回、かなり先進的な取組もされたということであるので、Sとすることでよろしいか。 (異議なし)</p> <p>「2医療人材の育成等に関する取組」は全員Aであるので、Aとする。 「3地域医療に関する取組」も全員がAであるので、Aとする。</p>
-----	---

「4 先進的医療・研究に関する取組」はBが3名、Aが2名。案はB、法人の自己評価もB。これは臨床研究中核病院の承認に至らなかったということがBの決め手かと思うが、意見はあるか。

○ コロナを考慮すると、Aでもいいのではという気もするが、自己評価もBであるので、ここは次年度以降の奮起を期待するという事で、Bが適切と考える。

○ Aとする意見はあるか。

○ コメントにも記載したが、ここは息の長い取組みを継続しているということが重要と思う。そういう観点で見た時、法人の自己評価はBであるが、前年度もBなのか、それともこの期だけがBなのか。恐らく、そうではないという記憶がある。

臨床研究中核病院の承認を得られなかったということが令和4年度も中期計画期間中もトピックスとしてあるのだとすれば、それは事実だと思うが、一方で、それ以外の指標や新たな課題を変わず継続されているということも事実と思う。令和4年度の評価は第3期中期計画期間の最終年度であると同時に、それまでの継続的な取組みが期を追うごとに劣後、落ちてきて評価がダウンするということもあり得ると思うが、これまで見てきていてそのような感じはないので、変わらずAとした。

法人がBを付けている理由は何かあるのか。令和2、3年度はBではなかったと思うが。

△ 過年度の評価は冊子17ページにまとめている。今、論点になっている表IV-4「先進的医療・研究に関する取組」を見ると、評価委員会の評価は平成29年度から令和3年度までA、令和4年度はB。

○ 恐らく、最終的には評価委員会の議論を踏まえて、過年度はAとしたのだと思う。気になっているのは、常に法人の自己評価がBであったのかという点。そうではないと思うが、確認はできるか。

△ 今、確認する。

○ 中長期的な取組も含め、相当大きなことが落ちているのなら仕方がないと思うが、そういう風には見えなかった。

○ 臨床研究中核病院の承認の件だけではなく、特定臨床研究の目標も達成できていなかったということもあって、順調に達成しているという感じではないかということで私はBとし、恐らく法人もそのような自己評価なのではと思う。前の年度との違いが分かりにくいところだが、今年度だけ見ると、目標を達成出来ていない部分がいくつかあるということかと思う。

○ 令和4年度の評価であるので、今、委員長がおっしゃった、これまでの傾向や推移とは関係なく評価するという事は間違いなことだと思うので、構わない。次の中期計画全体の評価の際に議論いただければと思う。

○ おっしゃる通りと思うので、また、後ほど、全体を見て議論させていただきたい。それでは、単年度についてはBで確定し、中期計画の評価で全体の評価をご議論いただくこととしたい。

「5 医療安全・病院経営に関する取組」については、1人がS、4人がAであるので、委員会としてはAでよろしいか。

○ Sは私であるが、全体的にAということについては異論はない。ただ、医療安全・病院経営に関する取組は、これといってこれが悪かったということがないままずっと来ているので、そろそろそういう評価かと思った。

○ よく頑張っちはいらっしやると思う。若干、目標に達していない部分もあったようであるので、Aとさせていただきます。

「V 法人の経営に関する目標を達成するための取組」は、全体評価は全員がAであるので、

Aとする。

「1 業務運営の改善に関する取組」は1人がB、4人がAであるので、案はAであるが、意見はないか。

- 前回は申し上げたが、機能としてはそれなりのポジションにあるという説明があったが、やはり内部監査は組織のガバナンス上、重要なセクションであるので、外から誰が見てもすぐわかるような形をとるべきではないかと考え、敢えてBをつけた。しかし、委員会としてAとすることについては異存はない。

- これも後ほど議論になるかと思うが、恐らく、中期計画全体としてはBという案になっているので、単年度の評価と異なっているものをどう考えるのかという議論があるかと思う。ここはAと確定させていただくが、後ほど、中期計画の評価の際に、もう一度、確認を含めて議論したい。

「2 財務内容の改善に関する取組」は4人がA、1人がSであるが、委員会としてはAとしてよろしいか。

(異議なし)

「VI 自己点検及び評価に関する目標を達成するための取組」については、全員がAであるので、Aとする。

令和4年度の評価は以上とする。

- 次に第3期中期目標期間の評価を確定していきたい。

(事務局より、資料4について説明)

- 「I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための取組」は全員Aであるので、Aとする。

「1 教育に関する取組」は3人がA、2人がSであり、案はSとしている。特筆すべき取組があると事務局から説明があったが、ここはいろいろ意見があると思うがいかがか。17ページの全体の評価一覧では、「1 教育に関する取組」は、平成29年度と令和2年度がS、それ以外はAで、令和4年度もAであるが、全体としてどう評価するか。

- Sとした。さまざまな評価項目があるが、各評価にウェイトの違いがあるわけではないのだが、そうは言っても大学であるので、教育に関する取組が一番大事と思う。そういった観点から、毎年、第3期中期計画を見ていると、どんどん手を打っていて、この、いわば根幹に対する取組は他の大項目、中項目の評価よりも目立っているのではないかと思う。ここは大学のベース中のベースであるので、過去にもSを得ているが、6か年を通したとしてもSを得られるのではないかと考える。こういう意見を言うと、逆にだからこそハードルが高いと言われるかもしれないが、私としてはそういう評価をしてもいいのではないかと思う。

- 私もSとした。やはりデータサイエンス学部の設置は大いに評価できる所であり、学生満足度も非常に高かった。私は学生からの満足度が高いという点を高く評価したいと思い、Sとした。

- 私は単年度をAとしたので、ここでSとするのはなかなか難しいと思った。確かにデータサイエンス学部は素晴らしい。公立で最初の設置ということで引っ張ってこられて、非常に努力をされていて学生の満足度も高いと思う。

少し気になったのは、教育に関する取組の指標に志願者数があり、目標値がとても高いことである。18歳人口がどんどん減っていくときに、どのような観点でこの目標値を立てたのか。そういう意味で少し残念な状況がある。

単年度にAをつけたので、ここでSはと判断してAとしたが、Sでも文句はない。きめ細かな教育をされていると思っている。

- 私もきちんとやっていると見るが、目標を達成したということだとするとAかと。難しい状況下においてなんとか成し遂げたというよりは、あらかじめ計画を立てて、それを順調に達成

したということならAかと思う。すごく難しい状況だったということとは違うのではということで、Aとした。法人が自分で出した評価と同じでいいと考えた。

- 私もとても悩みながらAとした。データサイエンス学部、全学的なデータサイエンス教育の推進、博士課程の設置も進めていて、非常に多層的に、あるいは全体の広がりを持ってデータサイエンス教育を進められたということは特筆すべきと感じている。そういう意味ではSでもいいかということもあるが、先ほど話があった、目標数値が高かった志願者数の点は気になり、Aとした。正直、悩ましい。

△ 第3期中期計画の設定のアジェンダの中には、データサイエンス学部の設置というのは当初入っていなかった。それを当時の学長と現市長のイニシアチブで、データサイエンス学部の設置を進めてきた。運営交付金の支援が確定しない中で準備を進めていたため、そういう点では目標通り進めたというものではない。

入試の志願者については、第3期中期計画の数値目標を立てる時に、前中期計画の数字を上回るものを全部局で出したという記憶がある。たしかに、将来の少子高齢化が進む中での受験人口の減少による志願者の減少をどこまで考えていたのかというのは、考慮すべきではあったといえるが、前述のように、前中期計画の数値目標に上乘せする形で目標設定されたという経緯があったことを補足する。

- 私も過去の経緯を十分に知らないのですが、データサイエンス学部が大学の外からのプレッシャーがあって作られたものなのか、それとも大学の中から主体的な形で出てきたものなのか、それによってもかなり違うという感じがした。そういう意味では、今の説明を聞いて、かなり主体的な取組であったということをよく承知した。かなり特筆すべき取組をしたというのは事実なので、それを評価するべきかと思う。その他、データサイエンス学部以外にもかなり質向上の取組をしていて、地道な取組かもしれないが、他の大学以上にやっているということは確かだと思う。それではSで確定させていただく。

「2 研究の推進に関する取組」は、4人がA、1人がS、案はAであるが、それでよろしいか。論文の発表数やレベル、科研費の状況等、いろいろな所を見てもかなり良い数字が出ているので、私ももう少し評価したいという気持ちはあったが、多少目標に達していない目立つ部分もあるようであるので、Aでという感じがする。

(異議なし)

「II 地域貢献に関する取組」は全員Aであるので、Aでよろしいか。

(異議なし)

「III 国際化に関する取組」はAが4人、Bが1人。案はAとしている。確かにコロナの影響をどう見るかということもあるが、他大学でも留学関係は目標を達成していないところが多いことも事実であるので、取組みとしてやるべきことはやっているということで、Aでいいと考えるが、よろしいか。

(異議なし)

「IV 附属2病院に関する目標を達成するための取組」は、Aが4人、Sが1人、案はAであるが、いかがか。

- この中期計画の6年間の後半の3年は、完全にコロナに被っているという非常に苦しい中で、大概の医療機関がぐちゃぐちゃになっている中で、数字を拝見する限りはしっかりおやりになっていて、驚嘆に値するというのでSとした。

- 委員は特に病院・医療関係の状況をよく御存知であるので、高い評価をいただいている。確かにいろいろな数値がコロナ禍でも達成されている部分が多いが、全体として見たときにはAでよいかと感じるが、この点はいかがか。

(異議なし)

それではAと確定させていただく。

「1 医療分野・医療提供等に関する取組」は全員がS。先進的な取組みが結実しているということで、委員会としてもSとしてよろしいか。

(異議なし)

「2 医療人材の育成等に関する取組」はAが4人、Sが1人、案はAであるが、高く評価

している委員はいかがか。

- コロナ禍でリーダーシップをしっかりと取った病院長お二人もさることながら、現場でものごとく頑張った職員に対する評価をこの中に込めたいと考える。
- その部分が一番込められているのは1の部分と思うが、他の部分についても高い評価をする意見があったということを確認し、委員全体の意見としてはAということによろしいか。
(異議なし)
次の「3 地域医療に関する取組」も同じことで、これもAでよろしいか。
(異議なし)
「4 先進的医療・研究に関する取組」は3人がB、2人がA、案はB。法人の自己評価はBである。意見が分かれているところであり、先ほどの令和4年度の評価でも議論があったところであるがいかがか。
- △ 先ほど委員から質問があった、「4 先進的医療・研究に関する取組」の過年度の法人の自己評価を確認したところ、すべての年度でAであったので、トータルすると5年間は法人の評価及び評価委員会の評価ともにAが続いていて、最終年度の令和4年度の評価がBという状況。
- 法人の自己評価も、先進医療の拠点としての認定を受けなかったということが理由か。
- △ この評価に関しては、臨床研究中核病院の申請をしたものの、取り下げざるを得なかったという所で、結果は結果として受け、それは厳然とあるため、法人としては言い訳ができない。同じことが先進医療の件数にも言えるので、プロセスとしては我々は常に努力しているし、自分たちでも課題を多く洗い出していて、それに対する取組みを強化してはいるが、現時点での数字としてあるものは仕方がないので、法人としてはBにしたといういきさつがある。
- △ ずっとAなのに今回どうしてBにしたのかという点について。我々、臨床研究中核病院を目指して、件数もそれなりに重ねて申請まで行けたが、後半戦、息切れして、特定臨床研究の件数が最近2年間くらいはあまり上がってこなかった。それで、このままでいくと持続できないであろうということで今回取り下げたということなので、過年度、ずっと5年間、全力でやってきたが、最近、若干息切れ気味だということがあったので、令和4年度の自己評価はBになるのではないかと。トータルとして、この6年間で総括しても、我々、全体としてそこに達成できなかったということからするとBではないかというのが、現場の人間としての評価。これは私一人の感想かもしれませんが、そのように感じている。
- 今の説明で、今までAと自己評価していたものを最終的にBとした状況がよくわかった。トータルで見たときに目標を十分に達成できていないという状況だということがわかったので、そういう意味ではBでいいという感じがする。先ほどの話のように、頑張ってこられたということは大いに評価すべきということはあると思うので、それを前提としながら、成果を上げるところまでの最後の到達ができなかったということであるので、Bということなのかと思う。
- 特定臨床研究というのは非常にハードルが高く、世の中一般で受け取る臨床研究とは全くレベルの違うものが求められている。ここを一定数、毎年、継続的に出すというのは、相当な研究機関あるいは医療機関としての底力が試されているところで、臨床研究中核病院に到達したところでも、この数を維持することに大変苦労している所もあるが、やはりここを安定させるということが何より今後の目標として重要と考える。
- それでは、将来に向けての期待を込めてということでBでよろしいか。まだこのレベルより上に行けるといって評価ということであるが。
(異議なし)
次の「5 医療安全・病院経営に関する取組」は2人がS、3人がA。案はAであるが、これはいかがか。
- 5の後半は、ほとんどコロナで没頭する中、特殊な状況で取り組んでやってきたことなので、中期計画6か年の評価ではあるが、ここはSでいいのではないかと思っている。全体のIVはA

であるが、「1 医療分野、医療提供等に関する取組」は異論なくSとされていて、全体的に考えるとやはりここもそういうレベルで評価すべきではないかと思うがいかがか。

- 先ほども申し上げたが、ここも職員一人一人がかなりしっかりとした意識を持っていないと、もちろん二人の病院長がしっかりと旗を振られたと思うが、上がいくら笛を吹いても下がへこたれるとここはこける部門であるので、コロナで大変な中、よくやったということでSとしたい。
- Aとした委員はいかがか。
- 難しい。私はAをつけた。コロナ禍をどう考えるかということがわからないので、どうしようかと。大変な努力をされたということはよくわかって、敬意を表したいと思うが、そういう意味での評価はしていなかったなので、Aとした。その辺はコロナ禍という状況をどう判断するかというのを議論いただいて、決めた方がいいのではないか。
- 私もコロナは度外視で見ていた所があるので、他の委員の方がおっしゃる通り、コロナの環境下でということを見ると、Sとしてもいいと思う。
- 私も悩ましいと思いつつながらAとしたが、この辺りは専門的な意見を頂ければと思う。確かに平均の在院日数等は、コロナ禍でも短くしているというのはかなりの努力とを感じるが、この辺りをどの程度、評価したらいいか。いろいろな患者サポートセンター、その他患者対応などもきめ細かくやられて努力されていること等を考えると、特筆すべき部分もある。全体の数値的なものも含めて、コロナ禍という状況を踏まえて、どの程度の評価が上がっていくものなのか、意見を頂きたい。
- 大変難しい質問。特に医療安全と経営という所は、先ほども申し上げたように、トップが旗を振ったり笛を吹いたからといって動くものではないと私は認識しており、それぞれの病院に千名以上の職員がいて、看護師だけでも千人位いる。それぞれ一人一人がしっかりとした意識を持っていかないと必ず崩れる。医療安全は特に、経営もそうであるが、末端までしっかりとした意識を持ち続けるということ、これは平時なら特に問題なく、指揮命令系統が働くが、コロナで現場が日々変わっていく、病棟の運営、運用や手術もどんどん変わってくる、その中で離職する人も少なくないというような混乱の中で、末端までしっかり維持できたからこそ、このような数字が達成できたのではないかと思う。
- 事務局でも迷ったようであるが、私は単純に、今までAを積み重ねていて、いきなりSはないかと思っていたが、逆に今までのものも、もう少し評価をしてもいいのかもしれない。
- △ 事務局としては、今まで「5 医療安全・病院経営に関する取組」はずっとA評価で、令和4年度も今回の評価はAということとした。コロナの関係は「1 医療分野・医療提供等に関する取組」で、今までも高い評価となっていた。このため、「5 医療安全・病院経営に関する取組」はAとしたが、あとは委員の皆様方のご議論と考える。
- 事務局としては、2人がSなら案もSとしたということか。
- △ 少数でも自己評価と違う方がいらっしゃる場合は、皆様で議論していただいて、確認していただくという意味で大学の自己評価から変えさせていただいた。しかし、この項目は単年度が一度もS評価となっていないのに、総合評価だけがS評価というのはいかがかということで、Aとさせていただいた。
- △ この医療安全・病院経営に関する取組については、コロナ禍でどのように頑張ったかということで皆様からご意見いただいているが、第3期を通して、コロナ禍であっても、患者サポートセンターを新設しようとか、2病院を統合してどうやって行くかということで、コロナの対応をしながらでも再整備に向けた職員、医療従事者の人事交流や改善に向けた議論を重ねてきた。そういった意味では、通常以上に第3期で努力している面もあったので、私も医療関係は専門ではないが、成果を生み出したことをご紹介させていただければと思う。データ分析で病

院経営について、皆様、一生懸命勉強会を開いたり、エクモのコロナ重症患者用の医療機器を皆が使えるようにしようとか、研鑽を重ねた現場の方も多くいたということをお伝えしたい。

- 今、大変なご苦勞を伺ったので、評価結果の説明にコロナ禍ということの記載はあるが、もう少しこの辺りを強調した文章にして、Sとするというのではいかがか。
- 確かに医療提供と病院経営の話はセットになっている部分があるので、Sでいいかと私も悩んだ。先ほどの話のように、頑張られた点というのが今の説明でも理解できたので、Sでよろしいか。全体の評価はAであるので、その中の項目としては、この部分は非常に特筆すべきということでSということにさせていただきたい。
(異議なし)
「V 法人の経営に関する目標を達成するための取組」は、全体は全員一致でAであるので、Aと確定させていただく。
「1 業務運営の改善に関する取組」は、令和4年度と異なり、Bが3人、Aが2人。法人の自己評価はAであるが、委員会の案としてはBとしている。私自身、中期計画期間の全体を十分には把握できていないところがあるが、以前からいらっしゃる委員の方は、認識が違う点があるかと思うので、ご意見をいただきたい。
- 単年度は、先ほど説明をした通りAとしたが、中期計画期間中を通してということではBとした。この項目に対しては、私自身が厳しめという所もあるが、やはりコンプライアンスやさまざまな不祥事のようなことも含め、こういったものは社会に対して、学生に対しても非常に大きい影響があるので、この数年間については着実に努力されているということは間違いないと思うが、まだ少し課題はそれぞれ残していることを考えると、まだまだBかど。
先ほどいろいろな意見があり、監査体制のことについても過去に議論してきている。そう簡単にすぐに機能するという問題でもないと思うが、取り組んだ効果が出て、業務運営がずいぶん改善されたとなるのは、一年一年で変わるものではないと思っている。確実に良くなっているけれども、全体としてはまだ合格点のAとまでは行っていないのではないかと思います。
- 私も前のことはわからないので、令和4年度としての評価をそのまま引っ張らせていただいた。やはり昨今の世の状況を見ると、大学法人のコンプライアンスがとても重視されている中で、傍から見てもしっかり体制が整っているという形は早急に作るべきではないかと思う。この中期計画期間中にそれができていないということは、この6年間の評価はBにせざるを得ないと思う。
- ダイバーシティに関しては、去年も一昨年も議論があったかと思うが、どういうダイバーシティを狙うのかというのが少しわかりづらいところもあって、歯がゆい感じがする。広報というか、知名度が目標値に届いていなかったと思うので、その辺の具体策を考えてこれからやるのかなと思ったが、今の所、なかなかうまくいっていないか、ということでBとさせていただいた。
- 私はAとした。単年度評価もAとした。特段、Bにする点はないとその時は思い、Aにした。確かに過去の評価を見ると、Bの年もあるので、確かにこの中期計画期間ではBもあるかもしれないが、単年度でAとしたということから、ここもAにさせていただいた。
- 私も単年度だけを見て、全体の状況を必ずしも詳しく承知していないということもあったが、Bがついたところはそれなりの問題があったとの話であったし、その後、その部分を含めて体制が十分と言えるかという点に少し問題を残すということも、この評価をさせていただいた以降に知ったので、ここはこれでいいかという感じがしている。
- △ 単年度でAと評価していただいた皆様もいらっしゃると思うが、令和4年度にはコンプライアンス推進担当を新たに設置したとか、新しい取組みを評価していただいたのかなというところ。Bと評価された方は、これまで6年間ずっと見てこられていて、整ってはきたけれども、数値に表れてくるものや具体化したものが少し足りなかったということかと考えるので、令和4年度の評価と第3期中期計画期間全体の評価が違うのは、そういうところにあるのではと考える。

- 確かに、令和4年度はかなり具体的な取組みをされたということでAでいいと思うが、全体としてまだ物足りないところがあるということが、先ほどの委員の話からもよくわかった。これはBでよろしいか。
(異議なし)
法人の評価とは異なるが、期待を込めてBということにさせていただきたい。
次に「2 財務内容の改善に関する取組」はSが1人、Aが4人で、案はAであるが、いかがか。異論はないようであるので、Aということにさせていただく。
最後の「VI 自己点検及び評価に関する目標を達成するための取組」は、全員Aであるので、Aと確定させていただく。
以上、S・A・Bの評価を確定させていただいたが、文章も含めて、この評価結果の案について、全体を通じての意見や感想があればお願いしたい。
- △ 確認ですが、第3期の「V-1 業務運営の改善に関する取組」は、特にこの間に何度も議論があり、ガバナンス体制、コンプライアンスの推進、大学ブランドイメージの問題、ダイバーシティの取組の問題ということで、比較的厳しめのご意見がある中、単年度は令和4年度の取組について一定の評価をしているのでAであるが、第3期は6年間を通じてはBということでよろしいか。
- そういう意見と思う。令和4年度に関しては具体的な体制であったり、新しいことにも取り組んでいるということの評価してA。しかし全体としてはまだ期待している所には行っていないということでBということと思う。
- この辺りはいつもハードルが高めと言ったが、いろいろな細かい項目もあれば、大きな課題・柱もある。令和4年度については、1年間に成すべきことはきちんとやっているという意味でAだが、6年の間で、1年ではなかなか作り上げきれなくても、2年、3年、少なくとも6年間ではけりつけてほしいということはある。理事長・学長をはじめ、実際にやっていらっしゃる方々は、途中で人が変わっているから大変申し訳ないと思うが、経営としてはそういうことで、中期計画期間6年と決めた以上は、けりだけはつけてもらいたい。ここでは細かくは申し上げないが、そこはあるのではないかと考える。
- △ 業務運営の改善に関する取組について、厳しいご指摘もいただいたが、例えばコンプライアンスの推進については、先ほど事務局からも紹介いただいたが、昨年度、コンプライアンス担当を配置した。確かに委員のおっしゃるように、対外的に横浜市立大学としてしっかりと独立した組織というか、見やすい組織になっているかということ、そこはまだ努力すべきところがあり、それは改善するように検討している。
広報については、前回もこの場でご説明したと思うが、中規模の大学としてどのように特長をとがらせて見せるかということで、例えば「研究の横浜市立大学」だとか、地元の方には、「起業するなら横浜市大」だとか、そういうような言い方で身近な人からも市大を誇りに思ってもらえるようにしていきたい。まだ努力半ばのところもあるが、例えばコンプライアンスの案件一つとっても、従来は、例えば内部通報はこのセクションとか、コンプラの関係はあっちのセクションとか、窓口が分かれていたものを一つに統合して、風通しがよくなり、課題が見えやすくなったというのは事実であり、今後とも一生懸命推進していきたいと思うので、よろしくご指導願いたい。
- △ データサイエンス学部は、私の前任の学長の時に創設されたが、大学にとっては大きな決断だったと思う。その翌年には、国際総合科学部の再編を行って国際教養学部、国際商学部、理学部の3つの学部に分けた結果、その後、学生の満足度も上昇し専門性も高まった。こういう大学として本質的な発展に関わる大きな行動が取れたということは、とても誇りに思っている。
- この中期計画期間に大きな変更をされて、着実に成果を上げられているということは、大いに評価しても良いと思うので、Sとした。
先ほど、病院についてはコロナ禍のことも少し評価したいという話があった。

- はじめにの所に入れるか、あるいは先ほど評価をSに上げた医療安全の15ページ、ここに少し文章を足した方がいいと思うが、いかがか。
- △ 先ほど、15ページの第3期「5 医療安全・病院経営に関する取組」をSとしていただいた際、特に専門である委員からの、こういった取組みは各経営のトップのリーダーシップだけではなくて、職員も含めて持続的な取組みが必要だという発言の中から、評価の中に加えさせていただければと思う。
- コロナ禍でそういったことが少し前進したという、難しい状況の中でもむしろレベルアップしたということの評価するということをつけ加えて、病院全体の経営層だけの取組みではないということに記載して頂きたい。
- 前から評価に携わった者として、実は「II 地域貢献に関する目標を達成するための取組」はSにしようか悩んだ結果、Aとした。この項目は他の項目と違って少し地味であるが、横浜市の中の市大という意味では、非常に重要なことで、細かいところを積み重ねてずっとやっておられる。それがどんどん広がりを見せている。しかし効果がすぐ何らかの形で出るものではない。第三者から見ると、あれやっていないのか、これやっていないのかとケチをつけやすい項目でもある。そう意味では、ずっとこれについてはこだわり続けて言っているが、よくやっていると思う。この中期計画は、AならAでいい。でもこれから何とかSになるように継続していただきたいし、エクステンション講座は市との連携に伸び悩みが見られると書いてあるが、私はよくやっていると、他大学と比較してもよくやっていると前々から思っている。評価はAであるが、引き続きSになるように期待しているので、そこをつけ加えたい。
単年度評価はSが多い。クローズアップしていいところを見ると、これはSだよねと言いたくなるが、一方で個人個人の思い、期待からすると、これも足りないよねと言われやすいような項目でもあるので、今後いい面を評価するということがいいのではないかと思うので、ぜひ引き続き頑張ってください。
- 確かに地域貢献は、今まで何回かSとされているのに、今回はAというのは少し厳しいかという感じはするが、社会の期待値が上がっているというところで、大学としての取組みは着実に積み重ねて広げてきていただいていると思う。それをもう少し評価できるような形に、もう一段階レベルアップしていただければと思う。
- △ 地域貢献については、第3期までは地域貢献という一つの枠の中で項目を作っていたが、今回、第4期をつくるにあたり、ここの部分だけではなくて、さまざまな研究・医療であったり、そういうところにも地域貢献と呼べるものが沢山あるということで、もう少し横断的に見られるようにしているので、全体の要素を見ながら地域貢献というものを評価していただけるかと、少し今までと見方を変えていただければと思う。
- 具体的に評価しやすいような形にいただいたということで、さらにここの所はきめ細かに評価をしていきたい。
- △ 市と市大の協議会を年に2回やっており、市の副市長レベルの方と我々、法人とで、大学の課題について話し合う場面がある。前回の協議会の場に、市の医療局長が見えて、医師の働き方改革の話になった時に、医療局長から「他県、他自治体の医療政策の会議で、医師不足については悩みの種である。しかし横浜市は市大があるおかげで、医師不足で悩んだことはない」とおっしゃっていただいた。我々としては、人集めは重大な使命だと考えており、年中それに苦勞している状況であるが、そのように言っていただけたということは、自分たちとしては大きな誇りだと感じている。
- 大学の附置研究所は、こういう評価には入ってこないのか。
- △ 附置研究所は、先端医科学研究センターと木原生物学研究所が入っており、木原生物学研究所だと理学部の評価になる。先端医科学研究センターについては医学部と病院の橋渡しのことをやっているため、そちらの方に評価が入ってくると思う。それだけを取り出して別の評価という形ではなくて、研究の方の評価になってくると思う。

	<p>○ 研究組織体制についての評価がないので、仕方がないとは思ったが、木原生物学研究所はとて有名なのに、出てこないなと思っていた。それも広報ではないかと思うが、この中に入ってしまったということなんですね。</p> <p>△ 外部研究費の獲得などは、木原生物学研究所が貢献している。</p> <p>○ もう少し表に出してもいいようにも思うが。</p> <p>○ 私も木原生物学研究所の公開講座を聞きに行ったことがあり、横浜市大にこういう研究所があるのだということを改めて認識させていただいた。研究機関の個別の話というのは少ないかもしれない。比較的、大学の出している説明でも研究の部分は簡単であり、そういう所が分かりにくいのかと思う。</p> <p>○ 前に委員会の中で、中期計画の策定の時だったかもしれないが、木原生物学研究所の説明がいろいろあったように記憶しているが。</p> <p>○ 研究と教育を一緒にしているが、やはり研究と教育は分けて考えるべきものと思う。ひとまとめに評価しているが、これは本来は分けるべきもの。</p> <p>○ 研究所というのが、なかなかひとまとめというか、具体的には出てきにくいのかもしれない。この辺りは少し意識をしながら、評価の所でもいろいろな情報を頂ければと思う。 評価についてまとめたということと、いろいろな視点から意見をいただいたので、それらを加えながら若干の修正をさせていただきたい。 表現などの調整については、委員長一任ということによろしいか。 (異議なし) それでは、皆様の意見を活かした形で確定していきたい。</p> <p>(閉会)</p>
連絡事項	特になし